

## 平成20年度 第2回坂東市補助金等検討委員会（会議要旨）

1. 日 時 平成20年8月22日（金）午後2時～5時

2. 場 所 岩井庁舎 第一応接室

3. 出席者

### （1）委員

委員長 大澤 義明

委 員 野口 次男、石塚 陽子、遠藤 裕子、伊東 明彦、  
坂巻 喜好（欠席）

### （2）事務局

企画部長 山口 高男、企画調整課長 塚原 一雄、財政課長 大久保 正己  
行政改革推進室長 前澤 達也、行政改革推進室 椎名 晃久、清水 陽子

### （議事）

（1）平成20年度 補助金等の見直し作業について

（2）意見交換

### （会議資料）

- ・資料1 平成20年度第1回坂東市補助金等検討委員会〔資料1〕後日回答資料
- ・資料2 平成19年度決算の状況（H18審査実施分）
- ・資料3 平成19年度決算の状況（H18審査実施分：財源内訳）
- ・資料4 平成21年度補助金交付要綱作成状況一覧表

## 【検討委員会での意見等について】

### 【資料2】平成19年度決算の状況（H18審査実施分）

**【委員長】**

決算書類欄にある決定通知とはどのようなものか。

**【事務局】**

各団体等からの補助金申請に対し、市が交付決定をした場合に通知する書類です。

**【委員長】**

坂東消防署（区分159～163）は領収書があるのに決定通知、実績報告が無い理由は。

**【事務局】**

事務の取扱いの関係で、坂東消防署については直接市の職員でなく、坂東消防署が事務処理をしており、市の補助金の形でない処理がされたためと思われます。

**【委員】**

坂東消防署（区分159～163）は領収書の欄と左の向上という欄に「 」が付いているということか、それまでは領収書が無かったということか。

**【事務局】**

添付されていませんでした。

**【事務局】**

決算書類の欄のうち左の向上は、領収書の添付についての前年度比較としています。

**【委員】**

実績報告書は、補助金の充当額、充当先が一目瞭然に分かるようになっているのか。

**【事務局】**

20年度の補助金申請時から充当先が分かるように、記載例を各所管課に配布しました。

**【委員】**

領収書の欄に明細書とあるものは、領収書なしの明細書ということか。

**【事務局】**

事業によっては領収書が何冊になるものもあり、支出した相手方などが一覧になっている明細書を出してもらいました。

**【委員】**

資金収支というのと同じなのか。

**【事務局】**

同じような形で一覧表にまとめました。

**【委員】**

生涯スポーツ課（区分 150）の全国体育指導委員研究協議会参加補助金は領収書が「×」になっており、また、昨年度からの向上も見られていない。このような状態のものに対し、補助金所管課は対応すべきではないか。

**【事務局】**

実績報告や領収書の写しの提出をお願いしていたが、所管課の方でも話しの行き違いがあり、そろっていない部分もありました。

**【委員長】**

いくら団体で持っていてもここで見られなくては意味が無い。領収書が提出できない理由を求めてもらいたい。

**【委員長】**

坂東消防署（区分 158）の団本部維持交付金だけ明細書となっている理由は何か。

事務局の説明では領収書が沢山ある場合に明細とのことであったが、何故 8 万円で領収書がないのか。

**【事務局】**

香料とか見舞など、領収証が出ないもののため添付されていません。

**【委員長】**

市は 19 年度の実績から領収書を付けると宣言したのでは。市ホームページにも掲載されているのでは。

**【委員】**

領収書が出せないようなケースはどのようなものか。

**【事務局】**

慶弔費関係の香典などです。

**【委員】**

香典の場合であれば、届ける者が受領書を書くなど、責任の所在が曖昧にならないよう、記録を残すべきではないのか。

**【委員】**

坂東消防署（区分 158～163）についてはH20計上替えとあるが。

**【事務局】**

一般会計予算の各節にて計上しました。

**【委員】**

予算計上替えしたものについての整理をお願いしておいたが。

**【事務局】**

21年度予算編成の時に、計上替え等についても整理し報告させていただきます。

**【資料3】平成19年度決算の状況（H18審査実施分：財源内訳）**

**【委員】**

団体等の総事業費の歳入決算額と歳出決算額が違う箇所があるが、金額の違いは単に繰越というだけか。

**【事務局】**

差額については、次年度の繰越金になります。

**【委員】**

実績報告書（補助事業等の内容・効果、収支決算書）や活動内容の記載が大雑把に書かれており内容がわからないものがある。単に活動費と書くのではなく、何に使われたのか、補助金を使うべき活動内容だったのかどうか分かるように記載すべきである。

補助事業者には活動内容に対する説明責任があり、市には実績報告書の十分な確認責任が必要である。

**【委員】**

歳入決算に占める市補助金と繰越金の割合、バランスのチェックが必要である。

番号75、繰越金が34.2%にも関わらず市補助金が30.4%もある。パーセントだけで見るとはいけない所もあるが、金額と割合を見ていきながら、バランスはどうなのかなど。ものによっては市の補助金の額を減らして行くとか、考え方を適用していくことが必要では。

**【事務局】**

市の交付基準に、繰越金の額が補助金額を超えているような場合には補助金額を調整するとありますので、基準が適用されることにより補助金額が調整されていきます。

#### 【資料4】平成21年度補助金交付要綱作成状況一覧表

【委員長】

交付要綱作成の締め切りはいつだったのか。間に合わないというのはおかしいのでは。

【事務局】

所管課には7月いっぱいまでに案の提出を依頼しました。補助率や終期の設定、補助対象経費が不明確なものなどは所管課に戻しましたので、それらの一部に再提出されていないものがあります。

【委員】

各種団体の所が多いが、食糧費の欄のところに「×」が沢山並んでいる。この「×」というのは説明からすると交付基準外で、本来ならば補助金は充当できないという意味だと思う。しかしながら、これは社会通念上仕方ないので、交付基準外ではあるが、認めるという意味にとるのか。

一覧表にした時に「×××」と付けては気になるので、社会通念上これはよしとするのであれば、注釈を入れるなど表し方を工夫すべきでは。

【事務局】

食糧費は原則認められないので「×」であるが、これらは社会通念上妥当だと思われるもについて表したものです。

【委員長】

区分69のさしま夏まつり補助金、区分70の市観光協会補助金の食糧費の理由が「社会通念上ふさわしいもの」、これでは情報量が全然ないので具体的にちゃんと書いていただきたい。

【事務局】

書き方については、具体的に「事業の飲み物代」などと書き方を改めます。

【委員長】

夕食代は認めてよいのか。

お酒が入らないような書き方が必要なのは、単価などをきちんと明記しないと誤解を招く。

【事務局】

弁当代と思われます。

【委員長】

「不明」というものには、どのような対応をしているのか。

【事務局】

補助対象経費が明確にされていませんでしたので、対象外かすら分からないため「不明」としました。

**【委員長】**

次回までには揃うと解釈してよろしいか。

**【事務局】**

庁内にもう一度周知して、全部確定するよう進めます。

**【委員】**

こういう時代ですから、会議等の開催時間帯や会議の持ち方に改善を要望します。

**【事務局】**

毎年、予算の編成方針において、会議については指示されていますので、各団体の方にも周知徹底されていると思います。

会議における昼食について、補助金での支出がないよう徹底したいと思います。

## 議事（１）平成２０年度 補助金等の見直し作業について

**【委員長】**

前回からの経緯について、事務局説明してください。

**【事務局】**

今年度につきましては、１９年度の実績検証として前回委員さんからも提案いただいておりますが、１９年度実績についての検証、審査方法等についてご協議願えればと思います。

また、全般的な補助金の見直しによる効果としての、市民協働によるまちづくり補助金や公募型補助金制度の導入など、市民活動やまちづくの活性化のための、新たな補助制度の創設についてご協議いただければと思います。

**【委員長】**

お金の使い方に関しては、資料のようにマトリックスに書き、公開することにより良くなると思います。一方で、費用対効果など、中身についての議論がほとんどされていない。こういうものは応援すべきだ、また、こういうのは如何な物かなど。その仕組みを入れなくてはとっている。そういう意味からいうと、前回、我々がＡＢＣＤのランクを付けたのがそういう意味での出発点だった訳だが、それは補助金に反映しないということですので、中長期的に新しい補助金を入れる仕掛けというか、仕組みというものを作らなくてはいけない。

この委員会は３年任期ですから今２年目で、そういう考えで始めなくてはいけない。

新しい補助金をどうやって引っ張って行くか。坂東市では総合計画で市民協働ということをやっているのだから、市民活動を応援するという仕掛けが当然必要であり、拾い上げていく手段。

昨年、審査を経験してこれはもう要らないと思う補助金も結構あったと思う。２０年も同じというのは、いくらなんでもひどいというか、あまりにも今の時代の流れというものを分かってい

ない。そういうものを一旦整理する必要があると思う。まず、そういう仕組みというものを、出来れば少なくとも来年度に実施して、再来年度の予算に反映できるような仕掛けだとか、設計だとかを考えて行きたいと思う。そういう意味からいうと、まちづくり補助金という考え方など、実際多くの自治体で取り入れている。

もう一つは、公募型補助金。守谷市や我孫子市が全国的であり、こういうのも考えて行きたい。そのためには、先進自治体を視察し勉強するというのもあるかと思う。その辺を自由な視点から議論していただければと思います。

**【委員長】**

まちづくり補助金というような新しい枠を作って来年度から導入する。市としては、そのような感じであるということによろしいですね。

**【事務局】**

そういう方向で取り組みをしていきたいと考えています。

金額については、21年度予算編成から補助金等交付基準が適用されますので、基準の適用による実質削減額に応じて、まちづくり補助金の枠というのも決めさせていただければと思います。

**【委員長】**

新規に純増というのは、個人的にもそれは創れないと思う。

**【事務局】**

せっかく効果があった中ですので、慎重に対応したいと思います。

**【委員長】**

個人的には、審査には市民の方にも入ってもらい進めたいと思う。

**【委員】**

市民との協働によるまちづくり補助金のような事例と、一方で一般公募型の事例があると思うが、市の方針としては前者の方の考えで行きたいという方向性で考えていいのか。

**【事務局】**

市の方向としては、ご指摘の部分もあるし、21年度予算編成に向け、補助金交付要綱も作成していますので、急に大きな流れを変えるというのではなく、市民との協働によるまちづくり補助金を考えたいと思います。

時代の流れであったり、先進的に一般公募型に変えている所もあるので、将来的にはそういう方向では考えて行きたいが、急に変わるというのは混乱も生じると思いますので。

**【委員】**

21年度に向けてのことが一番重要である。21年度予算に中間提言した時の枠組みが十分活かされているかなどに焦点を絞ってやれば。

**【委員】**

社会通念上、行政が食糧費を持つのが相応しいということで上がっていたが、あまりにも食糧費を相当占めているというのはいかなものかと思う。

補助対象外経費の中に、会議費、事務費、施設管理費とか本来自己財源で賄うべきものが含まれていたり、慰労的研修旅費や慶弔、飲食費など、補助対象外経費の部分に補助金の主流が行っているというものは改めて欲しい。

**【委員長】**

やるかどうかでことだと思いますが、19年度の実績を検査し21年度予算に反映する。それは無理なのか。

**【委員】**

21年度の情報というのは、何時頃上がってくるのですか。

**【事務局】**

21年度の予算要求の中に食糧費がどのくらい含まれているとか見ていただくということであれば、今年度については、通常予算の時よりも前倒しで予算要求書を出すようにしましたので、そういうことでは可能と思います。

**【委員】**

新たな補助事業の導入の考えもある中、既存の補助制度（金）をどう評価していくかというルーチンも含めて考えていくべきだと思う。既存のもののチェックをも視野に入れ、今年度の作業を進めたほうが来年に繋がると思う。

**【事務局】**

新年度予算の要求を見ていただければと思います。新たに予算要求の様式を作成し各課に通知します。

**【委員】**

補助金の必要性や費用対効果がわかる項目が必要である。

**【委員長】**

補助金の予算要求というのは何時なのか。

**【事務局】**

一ヶ月位の前倒しを考えています。

**【委員】**

本来であれば実績があり、その金額が正しいのかわかることだとは思いますが、今年度は進行中ですから、19年度の実績と21年度の計画が一致資料としてはあって、それで本来は評価するのになって気もしないでもない。



**【委員】**

20年度は一律5%削減で進行中である。

**【事務局】**

大きく変わったところなので、予算の状況を見ていただければと思います。

**【委員】**

計画にどう反映されているのかを、前回と同じように口頭で説明してもらおうなど。

**【委員】**

補助事業の内容、補助金の充当先の確認が効果的と思う。すでに交付基準や交付要綱については各課、各団体等に周知されており、これに基づき21年度は申請されるわけですから。

**【委員】**

本来はそれに基づいて作ってある訳ですから、我々から見ても多分ちゃんと当然のものが作られているはずだと思うが。

**【委員】**

21年度は交付基準に則ったものが作られてくる、それを見てもあんまり意味がないのでは。

20年の実績報告は重要だと思うが、交付基準や提言は生かされていない。

**【委員】**

ある意味ひとつのルーチンワークとして、21年度の計画が我々の出した答申に対して作っているかというチェックなのかなと。そういういわゆるルーチンをやることが重要だと思う。

計画は答申通り作ってあると思うが、そこをチェックするというルーチンワークを我々はきちんと一貫してやるという手もあると思う。

**【委員長】**

坂東市の補助金の整理としては、上位制度補助金以外を市民協働補助金と分類した場合、「前年度実績報告の取りまとめ 書類審査 市民公開ヒアリング審査 市長への結果報告 パブリック・コメント 事業担当課からの予算要求 予算ヒアリング・財政課査定 予算案議会」が流れかなと思う。

市民公開ヒアリングというのは今の段階では難しいと思いますが、やはり書類だけだと物足りない部分があるのでヒアリングを行う。公募制というのはこれとは別に作って。

そういう意味から言うと今議論になった来年度予算に対しては予算要求を受けて19年度の実績報告書を読んでヒアリングを行う。

**【委員】**

このとおりのルーチンワーク、できれば今年度踏んでいくべきだと思う。19年度実績、21年度の予算要求。両方の資料をもつての書類審査をする。このルーチンを一回するというのが本来の姿かなという気がする。今年度一回ルーチンなり、近いものを一回試してみて、それで行くのかどうかということも含めて、今年度判断する。

**【委員】**

非常に期間が短い。

**【委員長】**

もし可能であればそうしたいと思います。

**【委員】**

市当局がまちづくりということで考えている新しい補助金ということか。

**【委員】**

それとは別ですね。

**【委員】**

担当課からの補助金予算要求を一ヶ月位早めるとあったが、今年度でいくと何月頃になるのか。

**【事務局】**

全体的な予算編成については、10月中旬に予算編成方針を出し、要求の締め切りは11月下旬を予定しています。なお、枠配分予算方式なので11月下旬には各部長に査定していただき、12月上旬に財政課への提出を予定しています。

**【委員長】**

要求というこれからの目標と、過去の実績を踏まえて、要点から審査をしてコメントつける。お金の使い方はもちろん、大事なものは費用対効果だと思います。意味のある補助金かどうかをこの書類審査で見していきたい。仕組みを作るのが委員会の仕事だと思っている。

**【事務局】**

前年度の実績と次年度の要求を対比しながら見ていく。進行中の20年度のものには実績が出ていないので、前年度のもの、間を飛ばした翌年度のものを対比する。

**【委員】**

とりあえずこれが一番現実的なかと。

**【委員】**

ヒアリングは、書類審査が必要と思われるものだけを抜き出しにするとか、ある程度絞るような形でやるべきだと思う。

**【事務局】**

補助金の予算要求は逆算していくと9月締め切りになると思います。

**【委員】**

スケジュールや審査の方法などは委員長と事務局に一任したいと思う。

**【委員】**

他市の視察ですが、何時頃、何処にするのか。

**【委員長】**

時期だとか、あるいは、今話しがあった制度を入れるかなどによって場所は変わってくると思うが、できれば近場の所で。

**【委員】**

最終理想形の箇所とか、そこに行く途中の箇所というか、パターンとして2つ位行ければと思うが、お任せします。

**【事務局】**

次回の日程については、審査スケジュール等も含め委員長と調整させていただきます。